

# もも管理特報 No.4

平成30年5月31日  
 みな穂もも振興会  
 みな穂農業協同組合  
 新川農林振興センター

## ○5月下旬～6月 ももの作業チェック表

作業内容	ポイント	実施適期	実施日 (自己記入)
春型枝病斑の切除	・症状のある部分の枝を切除し、園地外で処分する ・摘果時期以外でも、発見次第必ず切除する	随時	
新梢管理	・発生場所に応じた管理をする(切除、摘心、捻枝) ・強樹勢の樹体や幼木は、作業が遅れないよう注意する ・垂主枝候補枝は誘引し、主枝との角度・勢力差を保つ	仕上げ摘果と同時期 (硬核期前)	
防除の実施	・散布ムラが生じないように丁寧に散布する ・散布間隔が10日以上あかないように注意する。散布予定日が降雨の予報である場合は、前倒しで実施する。	2. 病害虫防除参照	
出荷準備	・袋かけ数から、販売果実数を品種ごとに見積もる。 <b>袋かけ数 × 収穫率(目標90%) × 商品化率(目標80%) = 販売個数</b> ・贈答用の予約を受け付け、上記の計算から、どの時期にどの程度出荷するか計画を立てる。 ・出荷用資材を準備し、選果・販売所を整理整頓する。	6月下旬～ (袋かけ終了後)	

## 1. 生育状況

5月下旬からせん孔細菌病の春型病斑が散見されており、発生量が多い傾向にある。園地を充分に見回り、病斑枝の除去を徹底する。

## 2. 病害虫防除 下記の時期を目安に防除を行う。

### (1) 薬剤防除

#### <結実樹対象>

回数	散布時期	対象病害虫	薬剤名と希釈倍率		100% 当たり 薬剤量	散布量 (%/10a)	防除実施日 (自己記入)
8	6月5日 ～7日頃	黒星病、せん孔細菌病、灰星病	トレノックスフロアブル (展着剤 マリノ)	500倍 20,000倍	200cc 5cc	400	
9	6月15日 ～17日頃	縮黒星病、灰星病、せん孔細菌病、ホモブシス腐敗病 シンクイムシ類、ウメシロカイガラムシ、ハマキムシ類	デランフロアブル  ダースバンDF (展着剤 マリノ)	600倍  3,000倍 20,000倍	166cc  33g 5cc	400	
10	6月25日 ～27日頃	黒星病、せん孔細菌病、灰星病 アザミガキ、シンクイムシ類	トレノックスフロアブル  ノーモルト乳剤	500倍  2,000倍	200cc  50cc	400	

※せん孔細菌病の発生が多い園地では、バリダシン液剤5(500倍 7日 4回)を特別散布する。バリダシン液剤5は、8～10回目防除と混用可能である。

### <未結実樹対象>

回数	散布時期	対象 病害虫	薬剤名と希釈倍率		100% 当たり 薬剤量	散布量 (%/10a)	防除実施日 (自己記入)
6	6月9日 ～11日頃	黒星病、灰星病、 せん孔細菌病、ホ モブシス腐敗病 シンクイムシ類 ウメシロカイガラ ムシ、ハマキムシ類	デランフロアブル	600倍	166cc	100	
			ダーズバンDF (展着剤 マリノ)	3,000倍 20,000倍	33g 5cc		
7	6月30日 ～7月2日頃	黒星病、せん孔細 菌病、灰星病 モモハモグリガ アブラムシ類	トレノックスフロアブル	500倍	200cc	100	
			アドマイヤー水和剤 (展着剤 マリノ)	2,000倍 20,000倍	50g 5cc		

- 農薬散布にあたっては、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意してください！
- 園の近くに民家がある場合等は、散布日時を連絡するなどの配慮にも努めてください。

### (2) 耕種的防除

#### ①せん孔細菌病（春型枝病斑枝の除去）

- ・芽の枯れ込み、葉芽の奇形・不発芽、枝が黒～褐色に変色等の春型枝病斑がある枝を切除し、園地外で処分する。

#### ②灰星病

- ・花腐れ症状の発生している枝の除去を徹底する。



<灰星病の病班>

## 3. 仕上げ摘果

仕上げ摘果が完了していない園地では、早急に仕上げ摘果を完了させる。

【着果量の目安】

結果枝の種類	枝の長さ	仕上げ摘果
短果枝	5～10cm	3～4本に1果
中果枝	10～30cm	1～2本に1果
長果枝	30cm以上	1本に2～3果

## 4. 袋掛け

### (1) 目的

- ・果面の肌荒れ防止、裂果防止、病害虫被害果の発生軽減、着色促進

### (2) 実施時期

- ・仕上げ摘果終了後～6月20日頃まで

※せん孔細菌病の発生が多い樹は、早めに袋かけを完了する

## 5. 新梢管理

新梢の発生場所に応じた管理する。

### (1) 若木

- 幹元→整理(芽かき) (写真1)

### (2) 成木

- 幹元→整理(芽かき) (写真1)
- 主枝、亜主枝先端→競合枝を整理 (写真2)
- 主枝から発生している新梢→勢いの強い新梢に対し捻枝 (写真3)
- 側枝の基部の直上枝→切除 (写真4)

写真1



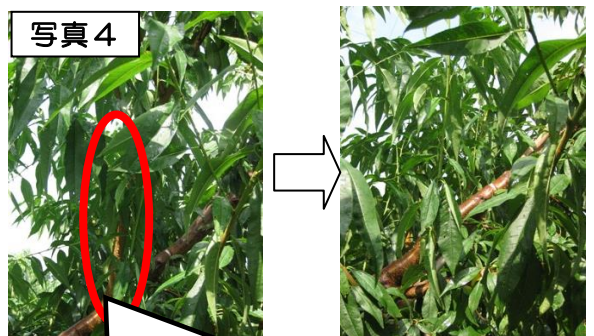
写真2



写真3

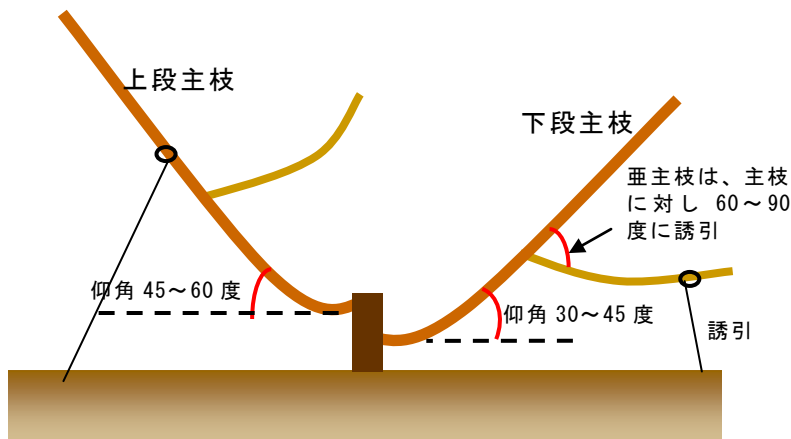
発生角度を広げるとともに、新梢伸長の抑制に効果的。

写真4



直上枝は、側枝先端の新梢伸長を抑制する原因となる。

### < 幼木 (2~5年生樹) の樹体育成 >



- 定植1~2年目は、強く長い主枝を育成するため、苗木基部~中央部付近の強勢な新梢を切除する。
- 上段主枝は下段主枝より仰角を広くする(下段主枝より高くなるように誘引する)。
- 5年目までに各主枝に第1亜主枝を作る。  
亜主枝は、主枝に対して角度60~90度つけ、主枝より先端が低くなるように誘引する。